

◆分散型TEKU-TEKUその2★渋谷、その後企画（活動記録）◆

企画■変貌する街、渋谷のその後（渋谷駅周辺、宮下パークと渋谷パルコ）

日時■企画説明 2020年11月14日（土）20:00～22:00（オンライン）

歩く期間 2020年11月15日（日）～12月31日（木）

標準コース■特に設けず、3つの評価対象ポイントをめぐりながら、各自が気ままに渋谷を歩く。

評価対象：①渋谷駅周辺（スクランブルスクエア東棟+渋谷フクラス）、②宮下パーク、③渋谷パルコ

評価提出■◎大竹 亮+栗原 徹、井手幸人、河内悦子、原 久子、藤井正男、藤井幹也、古里 実、横田宜明

（以上9名、◎コーディネーター）

企画主旨■渋谷駅周辺は、渋谷川の谷筋という複雑な地形を活かして駅と街が形成されてきましたが、21世紀にふさわしく空間構造を刷新すべく、駅一帯の抜本的な再開発が進められています。そんな渋谷を、昨年10月の企画「変貌する街、渋谷を歩く」では、目の当たりにしましたが、今回はその後に完成した「渋谷駅周辺」2施設（スクランブルスクエア東棟+渋谷フクラス）と「宮下パーク」、「渋谷パルコ」を取り上げます。それぞれ、駅周辺の大規模再開発、公共公園のPPP、民間商業施設の建替ですが、都市機能の複合、公共空間の提供、周辺環境への貢献など、渋谷の街の特性を考えた計画となっています。それは成功しているのか、これらの試みを軸に、さらに変貌を続ける渋谷の現在を歩いてみませんか。



立体都市公園制度による官民連携の宮下パーク



市街地再開発事業で建替えられた渋谷パルコ

1◆渋谷駅周辺/渋谷スクランブルスクエア東棟+渋谷フクラス

評価:2.78 内訳:ABBBBBBCC

評価A●スクランブルスクエア東棟は、JR渋谷駅、旧東急東横線渋谷駅、旧東急百貨店東横店を建替えし、ターミナルビルと百貨店の機能とオフィス機能をもつ大規模な高層ビル。駅上空にオフィスがあり利便性は抜群に良い。地下から地上3階を貫く空間にエスカレーターあり、21世紀を感じさせる。狭くて密集し1日の乗降客数100万人（JR36万人、京王井の頭線36万人、銀座線22万人他）を越える駅でよく建設できたと思う。渋谷フクラスは、旧東急プラザの建替えで、スクランブルスクエア西棟ができると駅との一体性が向上するので、今はまだ真価が発揮されていないと思う。

評価B●スクランブルスクエアは、渋谷駅の高低差と複雑な乗換動線をアーバンコアで処理しつつ、渋谷の新たなランドマークに相応しいデザインと機能を導入している。しかし、コロナ禍で人出が減っているので、14階までの商業施設は厳しそう。フクラスは駅とデッキでは繋がったが、駅街区全体が完成しないとアクセスしにくい。

評価B●中をゆっくり見ていませんが、どちらも洗練された大人っぽい印象。スクランブルスクエアは渋谷駅直結で使いやすい。ヒカリエとは改札階で繋がって行き来もしやすく便利。フクラスは井の頭線が近く利用者には有り難い存在。大きな歩道橋ができて移動も快適。比較的混雑してなくきれいで落ち着きます。上の階のレストランに行ったことがあります。テラスがあり渋谷のビルや駅を上から眺めながら食事ができました。

評価B●スクランブルスクエア東棟の映像が写しだされる壁面は新たな渋谷の顔。渋谷駅を目指して歩くのに便利なランドマークです。

評価B●渋谷フクラスでは1階にバスターミナル、スクランブルスクエア東横では15階に渋谷キューズという創業支援施設があるなど、都市再生特別地区の容積等規制緩和の代償としての貢献空間の成果を感じた。しかし、スクランブルスクエア東横では、商業施設を通常の高層階を超えて入れるなど相当無理をしているという東濃さんのコメントが気になった。

評価B●スクランブルスクエアは、駅の通路や改札口直近に入口が面して便利だが、内部は縦の動線が多くて利用しにくい。商業施設も、お金に余裕のある層をちょっとお洒落な暮らしへ誘う感じで、庶民には面白くない。フクラスは駅とデッキでつながったのは良いが、246角地の魅力づくりがなされていない。商業施設としてのコンセプトも中途半端だが居心地は良く、沿線住民が常連的に利用する手ごろな場所というイメージか。

評価B●スクランブルスクエアと銀座線へのアクセスの一体性や空間が、これまでにない構成ですばらしい。一方、渋谷ストリームとの繋ぎ部分が中途半端。ストリームが外に開いているのに対し、スクランブルスクエアは内向きで、歩行者デッキへの表情が乏しい。中央棟が完成すれば繋ぎの雰囲気も良くなるだろうか。

評価C●地下ではなく地上でつながったことは視覚的にはわかりやすい。地下だとの方向をむいているのかわかりづらい。フラス自体が商業ビルとして魅力がない。

評価C●スクランブルスクエアは駅からのアプローチが一部未完成にもかかわらず集客力があり混雑していた。全てが完成した際には更に人が集まると思われ、ヒカリエとの相乗効果もあり今後渋谷の中心となり得るか。「膨らす」からフラスと云うネーミングだが、語感がイマイチで印象が薄い。フラス自体はオフィス部分と東急プラザの合体したビルで、「東急プラザ」の部分も判りにくい。商業施設として見ると、駅から少し距離があるため人の流れが少ない印象。駅から濡れずに渡れるブリッジも色気なく殺風景でマイナス。



渋谷スクランブルスクエア東館12階の展望スペース



デッキ直結・バスターミナル併設の渋谷フラス

2◆宮下パーク（立体都市公園制度によるPPP官民連携事業）

評価:4.00 内訳:AAAABBBB-

評価A●ビル街の中の公園だが、4階レベルまで上げたことで開放感が増しており、非常に居心地の良い空間になっている。1～3階を商業空間とすることで街の賑わいの拠点ともなり、公共空間の新たな活用方策として非常に面白い。

評価A●どのフロアもオープンで風通しがよい。コロナ禍でも若者が並んでいるお店もあり。屋上ではビーチバレーのリーグ戦が行われていたりカフェがあったり、いくつかクリスマスマーケットのようなお店が出ていたり、活気がありました。もっと原宿寄りかと思っていたら渋谷駅からとても行きやすく、平日など空いている時間であれば天気の良い日はとても居心地が良さそうです。

評価A●いろいろな目線で周辺の都市の風景を見ることができるのは楽しい。風通しのいい空間でショッピング、飲食ができる、コロナ禍においてはありがたい施設だ。でも、郊外ショッピングモールのフードコートで食べると700～800円ものが、2倍の値段。食べ物を持って、屋上でのんびり過ごすのをおすすめします。足元の「のんべい横丁」とこの施設がどのように共存していくか、数年後が楽しみです。

評価A●宮下公園という渋谷の中では忘れられたような地味な場所が、人が集まり賑わう場所に生まれ変わったのが素晴らしい。空間構成も、渋谷川遊歩道を利用した飲み屋街、小さくても尖った店舗群、美竹通り上のブリッジや階段など、工夫が凝らされている。屋上公園の外周部や商業施設のテラス状通路には、街を見ながら休憩できる開放的なスペースがあり、大勢の若い人たちに利用されていた。この賑わいの影響か、のんべい横丁には若い人向けのショットバーにリノベする飲み屋も見られたが、これはいいのか悪いのか……。

評価B●本物の「のんべい横丁」の先の地上階で、横丁を模した路面飲食店に多くの人々が入り繁盛していた。若い人受けする良いアイデア。ショッピング店の入るエリアは内装を含めて倉庫風になっており、これも若い世代狙い。公園部分として充てられた屋上部分にも多くの人が集まっていたが、スケート、ボルダリング、フットサルなど専用スペースが多くを占め、一般の人が楽しみにくくなっていたのがマイナス。

評価B●パーキングだけではなく、地上を有効利用できていること、低層なことがヒューマンサイズでよい。外部にせり出した飲食店街「渋谷横丁」はのんべい横丁を引き継いだものとしてよい。何とか残されたのんべい横丁そのものがテーマパーク的に見え、愁いや情緒的な感じがなく単調になり嘘っぽくなってしまった。

評価B●立体公園制度を活用や、道路（美竹通り）の上空を公園施設として位置づけ南北の公園をつなぐ工夫など、都市計画制度活用の仕組みが面白い。駅側から公園へのアプローチとしてのセットバックする大階段や、店舗部分のアウトモールは、人の流れや休憩スペースとしての空間設計に工夫があると思う。公園部分は、芝生広場の芝や植栽に元気がなく、管理がうまくいっているのか気になった。また、渋谷川上面の遊歩道沿いの飲み屋街の賑わいは、コロナ禍もあって心配になった。

評価B●立体公園でここまでの活用が実現するとは驚き。特に道路を跨いだ空間構成は画期的。また、商業施設も足元の外部空間との関係や、外気にオープンな構成を混ぜるなど変化があり楽しい。一方、屋上の広場空間

は緑が乏しく、立体公園というには少し工夫が必要だったのではないか。

評価一●（公園としてはD+再開発としてはA）屋上庭園の趣きで使い方にもよるが公園としての機能は限られ、公園のもつ風致は感じられなかった。再開発としては、渋谷川暗渠を通路として、のんびり横町からの連続性があり、2階3階の商業施設の配置、デザイン性が優れている。公園と連続したホテル4階のパブリックスペースは使いやすいと思う。



1-3階に商業施設、4階に公園を設けた宮下パーク



開放的なテラス状通路で渋谷の街を眺めて一休み

3◆渋谷パルコ（宇田川町14・15番地区第一種市街地再開発事業） 評価:3.50 内訳:AAABBBBC-

評価A●スペイン坂からつながる通り抜け（ナカシブ通り）と屋上カフェ・ガーデンの外階段ともに連続性があり、街の楽しさを演出している。地下飲食店街は賑わいを演出するごちゃごちゃ感が楽しい。

評価A●やはり、スペイン坂から続く通り抜け空間が一番良く地域へ貢献していると思う。1階から屋上カフェ・ガーデンまでの外部階段と小広場等は、高層商業施設が立体的にオープンスペースを着物のようにまとめているという感じがした。地下1階の飲食店街は迷宮のイメージで面白い。千と千尋の神隠しを思い出した。

評価A●スペイン坂を上ると現れる建物、それに続く通り抜け空間（区役所通りへつながる）、公園通り側のファサードと広い歩行者スペースなど、建物とまちとの関係をよく考えた構成になっている。屋上テラスのライブスペースから地上まで続く屋外階段は、植栽や休憩スペースが組み込まれた多彩な空間で、歩くだけでも楽しい。内部の店舗構成は比較的オーソドックスだが、空間には独特のバザール感があって賑わっていた。

評価B●決して広くはない敷地ながら、様々な工夫を凝らし特徴のある店舗にしている。また、地下の飲食街は、店舗に個性があるとともに、天井が鏡になっており、独特の雰囲気をつくっている。スペイン坂からの繋ぎは、セットバックの弊害で連続性がないのが残念。

評価B●スペイン坂の階段からの連続性を意識した立体街路の空間はなかなか面白い。かつての渋谷パルコは新しい文化の発信拠点のイメージがあったが、今は単なる商業施設に見える。

評価B●建物内の通路と周辺の路地（スペイン坂など）とがうまくつながっており、歩行者空間を考慮した作り込みされているが、以前キラキラして近寄りたかったサブカルチャー発信基地パルコのオーラはなく（歳をとったということもありますが）、ワクワク感はこの施設からは伝わってこなかった。

評価B●外部空間で歩いて空が見え、視覚的に解放感があることは良い。渋谷らしくない息抜き空間。テナントは以前のパルコのような発信力がない感じ。内部は人がほとんどいなくて寂しい感じ。（コロナ禍だから？）

評価C●ファッションビルとして既定の建て替えの範疇。かつて「公園通り・PARCO」として人々を引き寄せた吸引力の再興はなかなか難しそう。今後は入居するテナントのレベルが勝負ポイントとなるでしょう。

評価一●（外から見ただけですが）スクランブルスクエアやフクラスと比べるとカジュアルで、なんとなく雰囲気は以前と大きくは変わらないような印象を持っています。（悪い意味ではなく！）



スペイン坂から区役所通りへ抜ける1階の開放通路



ライブカフェに面する屋上のテラスガーデン

4◆渋谷を歩いて、上記以外で特に印象的だった場所や発見したことなど

渋谷SKY★2,000円は少し高いが、229mからの眺望は都心全体を見渡すことができ、非常に素晴らしい。
渋谷キューズ★年齢や専門領域を問わず、それぞれが持つ課題やプロジェクトを取り組むための拠点とのこと。スクランブルスクエア東棟の15階フロアの一部を広く使って、創業支援の魅力的な空間になっている。

SHIBUYA109★渋谷のランドマークに相応しい象徴的な外観は今も健在。

SHIBUYA109★立ち退きを頑として拒んでいた「玉久」が、協議設計されたビルに建て替わってるのに驚いた。マークシティと渋谷フラクスの間の飲み屋街★今やビルの谷間に残る飲み屋街。微妙に坂道になっていて、渋谷らしい横丁感があって良い。

のんべい横丁★宮下パークができて周りがきれいになってしまったので、独特の雰囲気少し薄れてきている。

のんべい横丁★昭和を感じさせる飲み屋街は、コロナ禍でも健在なのだ実感しました。

のんべい横丁★昭和二十年東京地図の残影。かつての玉久なきあと、ぜひとも残ってもらいたいもの。

のんべい横丁★保存したい昭和の飲み屋空間。

宮下パークから見る風景★明治通りを挟んだ渋谷キャスト、原宿方面へ伸びる渋谷川遊歩道(キャットストリート)、公園通りPARCO方面へ上る美竹通りの坂道、青山通り方面へ上る坂道など、街の構成が良く見える。

宮下パークから見る線路★山手線だけでなく、埼京線、りんかい線、湘南新宿ライン、成田エクスプレスなど色々な電車が見える。鮮やかなネイビーブルーの相鉄線までやってきたときには驚いた。

IKEAやニトリ★サインを見ただけですが、郊外にあるイメージの店舗が渋谷に出来ていることが印象的でした。

スペイン坂★北川原温の旧シネマライズなど、坂に面した店舗の玄関口の設えや多様で特徴のある沿道店舗の連続する空間は健在。周りの通りが個性を失っているの、余計際立って見える。

八雲クラブ(都立大学同窓会館)があるマンション★渋谷パルコのすぐ向かい側にあるということ渋谷パルコの再開発で今回初めて知り、マンションの見え方が変わりました。

公園通りを飾るポケット花壇★通りを飾るこうした花壇はうれしい。

国立代々木体育館★協議会も設立され、世界遺産の機運が高まっている。

1964年のオリンピック宿舍★代々木公園の変遷を知る上で重要な施設。

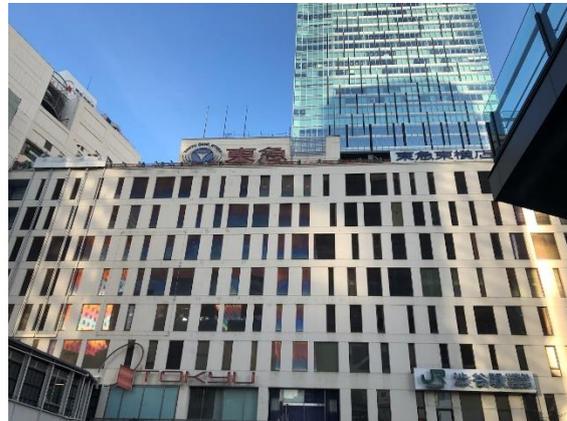
坂倉準三設計の渋谷駅★ガラス面はグロピウスを彷彿とさせる。

坂倉準三設計の渋谷駅★閉店した旧東横百貨店(渋谷駅ビル)を見て、素晴らしいファサードだと改めて感じた。

かつての渋谷駅★構造は複雑だが、乗り換えは便利だった。特に井の頭線と銀座線、東横線と銀座線は至近だったし、山手線玉川口改札は階段無しで乗降できた。再開発後は、埼京線以外は前より不便になってしまう。



昭和戦後の名残り「のんべい横丁」にも若い人が



旧東急百貨店東横店とスクランブルスクエア東館

5■あなたにとって、渋谷の街の魅力は何でしょうか

●常に変化し続けることが渋谷の魅力。渋谷は街全体がラビリンスであり、複雑な地形と狭い道路など、大規模開発を行うことが非常に難しいにもかかわらず、それを超えるだけの街のパワーがある。

●様々なジャンルやテイストの、流行や新しいものを見ることができる場所。私が学生の頃は、渋谷といえば中高生くらいの若者が多くごみごみしている印象ばかりでしたが、ここ最近様々な変化があり、幅広い世代が楽しめるような場所が増えたのだと改めて感じました。個人的に、自宅からも行きやすく交通の便ももちろん良いこと、代官山・表参道などに徒歩で行けるところも気に入っています。少し歩くと混雑も和らいでくるので、渋谷の端あたりが行きやすいなと思っています。

●学生の頃、陣内先生の「東京の空間人類学」など読んで、都市の魅力とはこういうことだと示してくれた存在。北川原温のライズビルやエドワード鈴木の変番、渋谷文化村などが次々とできて、街が活気づいていた。今は、街路沿いの店舗も一貫性がなく、当時のわくわくするような印象を受けなくなってしまった(歳のせいもある)。スクランブルスクエアやパルコなどがきっかけとなり、沿道の店舗の構成まで影響を与えて、街全体の楽しさを復活させてほしい。

- 渋谷は、やはりすり鉢状の地形の魅力、そこでのまちの成り立ちと文化が魅力なのだと、今回の企画で歩いて感じました。
- 代々木公園につながる公園通りのカーブと坂道。ブラブラ歩くことが苦にならない点。道元坂や宮益坂、渋谷神社、代官山方面など多方向のそれぞれ違った顔があり面の広がりがある。今は高層ビルによって分断され面的な感じがしなくなった。高層ビル内部のタテ移動になったのと巨大化しすぎたことと、資本系のお店が多く残念ながら、多方向の個性が弱まりつつある。
- 私が渋谷の街に出ていくのは、東急文化村で開催させるコンサート、アップリンク渋谷でのマイナー映画鑑賞ぐらいで、年に二回程度。人が多いので、目的地に行って途中下車しないで、戻ってくるといった使い方していますので、私にとってと限定されるとあまり魅力を感じない街です。
- 渋谷が生まれふるさとである私にとって、周辺に住宅街は広がっているが、静かには住めない街となっている。ターミナルで人が集まり、私鉄沿線には高級住宅街が広がっているので集客力のある街である。オフィス機能が加わり、街の魅力が増すことと思う。
- 渋谷の町は東急沿線や井の頭線から多くの人が集まる特長から、新宿や池袋と違う少し小奇麗な雰囲気がありそこが魅力。過去から考えると「東急東横店、東急文化会館、大盛堂」→「公園通り、パルコ」→「ヒカリエに始まりスクランブルスクエア等の最新の開発」と波動的に開発が続いていて、いつも大勢の人が集まっているイメージ。結局これらの開発投資をかけられる集客力がある町ということですね。幼少期に渋谷に行き冷房の効いたプラネタリウムに入ったこと、明治通り沿いに都電の電停から青山方面の電車に乗ったこと、ガード下で白い服を着た傷痍軍人の方がアコーディオンを弾いていたことなどが思い出され、その時代にも渋谷には大勢の人が集まっていました。
- 渋谷は谷間の街で平地が少ないので、平坦な銀座・新宿・池袋と違って商業集積地としては不利だが、谷筋の商店街と台地の住宅地の境目の坂道に意外なスポットが出来たり、住宅地の中に店舗が侵食するラビリンズ性があったりと、不利を逆手にとって一段上へ進化発展しているのが最大の魅力。また、複雑な地形に区分された各々のエリアが、様々な世代や関心事に深く対応して、意外と街に多様性がある。かつて、保守的な東急の牙城に革新的な西武が進出して若者文化の発信拠点に変貌したが、その後は凡庸な若者大衆文化に陥っている。若い世代だけでなく、全世代の楽しめる街になってほしい。



井之頭通りからパルコ方面へ抜けるスペイン坂



渋谷フクラス1階に設けられたバスターミナル

6 ■今後の渋谷のまちづくりについて、ご意見ご提案があれば

- 渋谷は昭和20年代からいつでも工事している感があり、将来予測による計画的なターミナルとならず、東急を中心に目先の利益だけでできた街だった。まさに都市計画の欠如を感じていた。ここで大規模な再開発が進み、2027年スクランブルスクエア西棟が完成して落ち着くのだろうか。10年後の社会情勢に対応する街となっているのだろうか。
- 渋谷駅周辺の再開発の進展で渋谷全体は大きく変化してきているが、東急カラーが強く出すぎている。かつては西武と東急が競い合うことで渋谷の魅力が拡大しており、東急以外の新たな文化の発信が生まれないと、本当に魅力的な街にならないのではないかと。
- 大規模な開発が多い割には開発が内側に閉じている感じがして、周辺への波及という点で効果が限定的になっているように感じる。地域の協議会や商店会との関係がわからないが、街全体でアクションを起こすことが大事ではないかと。
- 渋谷も、特定都市再生特別地区であることによる容積等の都市計画規制緩和が都市再生の貢献度合いによって行われているが、都市再生についても今後の渋谷のまちづくりの物語が区民、都民、まちを利用する人たちに共有されると良いのではと思う。
- お店を見るのではなく、ブラブラ歩いて楽しい道。高層化によって空いたスペースを公園に。ニューヨークのセントラルパークといわないまでも、ここまで高層化してくると息抜きの空気がほしい。

- 渋谷の街は、谷筋という特殊な地形に鉄道各線が重層する複雑な構造である。かつての渋谷駅はコンパクトで巧みな空間構成によってそれを克服していたが、今後は駅と街の歩行者の回遊性を高めることが重要である。地形の高低差を逆用したヒカリエから宮益坂、マークシティから道玄坂への通り抜け、東横線の記憶を伝えるストリームから代官山への廃線跡遊歩道、渋谷川暗渠上の宮下公園から原宿への遊歩道などを活かすとともに、今後は南口の246+首都高から南平台方面、北口のハチ公前交差点から神泉・奥渋谷方面へと、歩行者がスムーズに越えられるようにしたい。それによって、限定的な若者だけの街から脱却し、平均的でつまらない大衆的な街でもなく、世代や志向など各種のニーズに対応できる重層的な街になっていくことができるだろう。
- 日本の都心まちづくりの極にある街だと思います。多様性を受け入れ、複雑でかつ変化し続ける街であり続けてほしい。

7 ■ 今回の企画全般についての感想など

- 渋谷駅と周辺の主要プロジェクトを再開発に詳しい東濃さんにご案内いただき、元渋谷区在住の横田さんと三人で見て歩くという贅沢な分散型TEKU-TEKUでした。大竹さんの詳細な資料もあって、渋谷のまちへの理解が大変深まりました。みなさん、ありがとうございました。(H/M)
 - 渋谷は身近な場所でありながらも、最近では駅の外に行っていなかったもので、新しい渋谷を見ることができて良かったです！このような機会がないと自分だけではあまり改めて行ったり考えたりしないので、はじめて参加させていただき、ありがとうございました。(K/E)
 - あまり時間がなく、過去の視察の記憶も交えて評価しました。コロナ禍ではありますが、街を見るきっかけとして、地域を紹介いただくのは有意義だと思いました。(F/Ma)
 - 原宿駅から渋谷駅まで歩いたのですが、途中の代々木体育館のデッキは、ほとんど人影がありませんでした。コロナ禍の金曜日の午後だったからでしょうか？公園通りに着くと人通りが多くなり、宮下パークは多くの方が利用されていました。渋谷も場所、施設で人がこんなにも違うですね。(I/Y)
 - 高層ビルの巨大化した渋谷の開発は、ターミナル駅のためドル箱臭さ漂う開発で、各不動産業者が思惑で開発されているイメージでつながりもなく、もうどうしようもないのではと足が遠のいていたので、渋谷自体をテーマにあげることで自体が斬新。学生時代の渋谷に戻れというようなノスタルジックなことを言う気もなく、どうなっていくのかの興味はあります。東急は若者ではなく大人のまちをコンセプトにしていますが、落ち着いたイメージも醸し出されていないので、今はまだ若者のまちで、今回の評価ポイントに中高年はいませんでした。(H/H)
 - 城北地区で生まれ育って池袋が拠点だった高校までの私にとって、銀色の東急バスが走り回る城南地区の渋谷は憧れの異世界でした。公園通りが注目されて東急から西武の街に変わる頃、大学に入って渋谷が拠点となりましたが、社会人になると若者中心の渋谷は縁遠くなって、毎月、大学の同窓会館に行くだけの街になりました。しかし近年、娘と同居してから音楽と映画に浸る生活が復活し、HMV、レコファン、disk-union、NHKホール、大和田さくらホール、ユーロスペース、イメージフォーラム、アップリンクなどに通い詰める親しい街に再びなっています。渋谷駅と周辺の大改造は巨大施設主義でありあまり感心しませんが、宮下パークや渋谷パルコの居心地の良さや、奥渋谷方面のラビリンス性に、街の未来を見る想いです。(O/R)
- コーディネーターより●コロナ禍が拡大する中で渋谷を歩いてもらうのはやや無謀かと思ったのですが、実際に行ってみると日曜でも人が少なく、渋谷スカイも待ち時間無しでエレベーターもガラガラという状況だったので、意外と良かったのかもしれない。(K/T)



渋谷駅の新しいメイン通路とスクランブルスクエア入口



渋谷川遊歩道を活かした宮下パークの渋谷横丁